データベース
神保宇嗣　2004–2008. List-MJ 日本産蛾類総目録.
米倉浩司，梶田　忠　2003–. BG Plants 和名—学名インデックス (YList).

新　刊

□林　将之：**葉で見わける樹木**（増補改訂版）B6. 303 pp. 2010. ￥1,940＋税．小学館．ISBN 978-4-09-208023-2.

本書は2004年に出版された小学館フィールド・ガイドシリーズ22『葉で見わける樹木』に48頁121種を追加した増補改訂版で，野山や公園，庭で見られる樹木471種を掲載している．葉の形を，単葉か複葉，互生か対生，鋸歯縁か全縁の順序で分類し，専門家でなくとも簡単に葉の検索ができるようになっている．野山や公園に生育する樹木は，ほぼこの一冊でカバーできるので，樹木を探しながら持ち歩くのに適している．

本書に掲載される葉の写真はスキャナーで取り込んだものであり，著者が独自に考案した方法だそうだ．葉全体にピントが合い，自然な影のついた立体的画像が得られている．この画像により採取時の瑞々しさや質感が表現されることが，検索のしやすさに一役買っている．葉のスキャンの方法も本書内に記載されているので，自分なりの図鑑を作ってみるのも面白いかもしれない．600 dpiでのスキャンなら毛の様子の拡大も可能とのことだ．著者は樹木鑑定サイト「このきなんのき（http://www ne.jp/asahi/blue/woods/）」の主催者でもあるので，写真による鑑定のポイントを心得ているのだろう．葉の形に関する用語や形態学的特長による鑑別のポイントも丁寧にわかりやすく解説してあるので，野山や公園にある樹木の名前を調べたい人には最適な一冊である．（近藤健児）

□小野蘭山没後二百年記念誌編集委員会（編）：**小野蘭山**　A5. 578+58pp. 2010. ￥12,000＋税．八坂書房．ISBN 978-4-89694-985-2 C1020.

蘭山の紹介は今さら必要あるまい．序文，略伝に続いて論文編415頁，資料編150頁のほか，巻末から逆に頁をふった58頁 (括弧付き頁) が加わる．本書の大部分の578頁は縦書き，後ろの58頁は横書きである．横書き部分は目次では執筆者紹介と編集後記としか出ていないが，実はここにも四編の蘭山研究が収められていて，論文編の目次の中で括弧付き頁で示されている．論文編は・蘭山と学問，・蘭山と自然，・蘭山と東西文化交流となっており，それぞれ9編，11編，5編が含まれる．中でも小野家当主の小野　強：小野蘭山蔵書の保存の思い出は，直系の子孫の乏しかった小野家の人たちが，苦労しながら貴重な遺品を災害や戦争から守ってきたいきさつを記している．蘭山関係資料は，2001年に国立国会図書館に寄贈された．また米国で発見された門人・木内政章蔵書から，当時の医学界の情勢をうかがうことができる．資料編は・翻刻・解説，・編集資料で，蘭山の書簡90点が活字に翻刻され，名宛人の解説と共に見ることができる．そのほか門人録，年譜，略系図など，今後の研究に有益な資料を提供している．巻末に執筆にかかわった26名が業績とともに紹介されている．編集後記によると，最初は記念展を企画したものの，不況も手伝ってうまくゆかず，記念出版に方針を転換したとのこと．おかげで図録よりは後世に残る研究集録ができることになったのだから，企画者たちの努力は報われたと言うべきだろう．これと平行して，蘭山の顕彰碑を建てる企画も進んでいる．　(金井弘夫)

□大場秀章・田賀井篤平：**シーボルト博物学・石と植物の物語**　B5. 242pp. 2010. ￥3,600+税．智書房．ISBN 978-4-434-14579-7 C0045.

シーボルトがその医学伝授の見返りに，日本各地から集まる弟子たちに対して動植物標本を広く収集させ，それに基づいてFlora Japonica, Fauna Japonicaを刊行したことはよく知られている．彼が求めたものは，日本の天然資源や民俗を知るための博物学的コレクションだったから，鉱物・地学標本も含まれていた．しかし動植物と違って，鉱物標本のまとめは未完に終わり，標本は博物館に収蔵されたままで時を経ていた．本書は大場氏による「シーボルトの植物物語」と，田賀井氏に